

# 甲州街道を歩こう

(甲州街道 四谷～新宿)

記

- 日 時：令和1年11月15日(金) 8時45分集合
- 集合場所：所沢駅 池袋行きホーム後方……<雨天決行>
- 見学場所及び時間：コース全長 約4km (見学場所の中は除く)  
所沢駅(8:49)…新宿3丁目乗換⇒四ツ谷(9:43) ⇒新宿歴史博物館  
⇒於岩稲荷…陽雲寺⇒昼食：BistroWing(11:30～) ⇒消防博物館  
⇒四谷大木戸跡⇒円朝旧居跡⇒太宗寺：江戸六地藏⇒追分：新宿原標  
⇒新宿3丁目駅(副都心線)…練馬…⇒所沢駅(15:30頃帰着予定)
- 交通費(所沢から)：約1,000円
- 昼食 11:30～ Bistro W 03-5360-1078
- 散策先簡単ガイド

## <甲州街道>

甲州街道は、江戸幕府によって整備された五街道の1つとして、5番目に完成した街道です。日本橋から内藤新宿、八王子、甲府を経て信濃国の下諏訪宿で中山道と合流するまで44次の宿場が置かれました。ちなみに、国道20号線の甲州街道は四谷4丁目交差点から小仏峠までです。

日本橋から江戸城の半蔵門、四谷を通過して内藤新宿が最初の宿場です。このうち四谷御門から江戸城を出て新宿三丁目まで地下鉄3区間分を歩きましょう。



四谷御門

<新宿歴史博物館> 観覧料：一般300円

常設展示：昭和初期の新宿を中心とした山の手文化を中心に、旧石器時代からの歴史を紹介している。東京市電や文化住宅、軽演劇場のムーランルージュの舞台などを再現展示しており、次の六つのテーマで構成しています。

1. 大地に刻まれた歴史、2. 中世の新宿、3. 江戸のくらしと新宿、4. 近代文学にみる新宿、5. 昭和初期の新宿、

6.戦中から戦後・平成 新宿のうつりかわり  
特別展示：近代測量 150 年記念 「測量×地図 測り・描き・守り・伝える」

<四谷於岩稲荷田宮神社>

「田宮稲荷神社は、於岩稲荷と呼ばれ四谷左門町の御先手組同心田宮家の邸内にあった社です。初代田宮又左衛門の娘お岩（寛永 13 年没）が信仰し、養子伊右衛門とともに家勢を再興したことから『お岩さんの稲荷』として次第に人々の信仰を集めたようです。



鶴屋南北の戯曲『東海道四谷怪談』が文政八年（1825）に初演されると更に多くの信仰を集めるようになります。戯曲は実在の人物から 200 年後の作品で、お岩夫婦は怪談話とは大きく異なり円満でした。鶴屋南北はお岩さんが死んでから 200 年も経っているのに根強い人気があることに注目しお岩という名前を使って戯曲を書きました。その際にお岩の名前だけを拝借して、江戸で評判になったいろいろな事件を組み込み評判になったのです。

稲荷社は明治 12 年（1879）に火事で焼失し、その際初代市川左団次から新富座などの芝居小屋のそばに移転してほしいという要望もあり、隅田川の畔にあった田宮家の敷地内に移転した。それが現在の中央区新川にある於岩稲荷神社です。

しかし、田宮家の四谷の住居は新川に移転後も田宮家の住居として管理されており、昭和 6 年に東京都の旧跡に指定され、昭和 27 年に四谷の旧地にも神社を再建し現在に至っています。

<陽運寺>

水戸市にある久昌寺の貫首であった蓮牙院日建上人が昭和の初め頃建立しました。本堂は宝暦七年（1757）建造の薬師堂を移築したものであり、寄木造りの貴重な建造物です。堂内には宗祖日蓮大聖人御尊像をはじめ、鬼子母尊神像、弁財尊天像、大黒尊天像などが勧請安置されています。



当寺は江戸、文政年代に活躍した四世鶴屋南北作「東海道四谷怪談」で有名なお岩様をお祀りしていることから於岩稲荷とも呼ばれており、本堂にはお岩様の木像が安置され、厄除け、ご縁事、芸能事に霊験があると多くの参

拝者の信仰を集めています。境内にはお岩様由縁の井戸、再建記念碑等があります。

以上が陽運寺のホームページからの抜粋ですが、昭和の初め頃には田宮稲荷神社は新川に移転した後だったので、お岩様をお祀りすることになり、昭和27年に田宮家の敷地にお岩稲荷が再建されたため二つのお岩稲荷が出来たのではないかと思います。

### <Bistro W> 11:30～ (70 分間)

「ホテルウィングインターナショナルプレミアム東京四谷」1階レストラン「Bistro W」のランチはボリュームたっぷり、下見の女性陣に好評だったサラダバーは新鮮な野菜をふんだんに取り入れ、美味しく健康的。



<https://www.hotelwing.co.jp/yotsuya/restaurant/lunch/> 03-3356-2111

### 選べるランチ：1350円(税込み)

週替わりの「選べるメイン料理」、「サラダ&スープ&焼きたてパンBAR」、「ドリンク&コーヒーBAR」、「ソフトクリーム」

11月15日のメイン料理は

- ① PASTA 新鮮 小ヤリイカとアンチョビーのアーリオオーリオ
- ② PIZZA たらこ&シラスとまとのハーフ&ハーフ (3名まで)
- ③ 鱧のフリット カボチャのポタージュに浮かべ
- ④ 豪快！俺のローストビーフ丼

### <消防博物館>

江戸時代から現代までの消防の歴史に触れながら、「防火・防災を学べる消防博物館！」です。消防車の模型に実際に乗り込んで、火災現場に到着、消化活動するまでの疑似体験をすることも可能です。大正から平成まで、実際に活動した消防自動車8台、消防ヘリコプター1台展示されています。映像と展示で火災の恐ろしさと防災の大切さを理解していただけます。

展示スペースは地下1階、3階、4階、5階、6階、飲食や休憩スペースは10階で、天気が良いと10階にある展望休憩室から富士山が見えるそうです。入館料は無料で、10名以上の場合は団体の申請が必要です。

### <四谷大木戸跡>

四谷大木戸は江戸時代初期の元和2年（1616年）に設けられた甲州街道の関所で、この場所で江戸に出入りする通行人や荷物を取り締まっていました。地面には石畳を敷き、木戸の両側には石垣を設けていました。初めは夜になると木戸を閉めていたが、寛政4年（1792年）以降は木戸が撤去されてしまい、現代では石碑が立っているのみです。



### <玉川上水記念碑>

大木戸近くには承応2年（1653年）に完成した玉川上水の四谷水番所が設けられ、ここから江戸市中へ配水していた。玉川上水は多摩川の羽村堰で取水し、武蔵野台地を通り四谷大木戸まで約43kmの開渠で送られ、四谷大木戸から江戸市中へは石樋・木樋の水道管を埋設して通水されていた。水番所には、水番人が一人いて、水門を調節しながら水量の管理をし、ゴミの除去もしていたという。



### <三遊亭円朝旧居跡>

三遊亭円朝は幕末から明治に活躍した落語家。滑稽噺より、人情噺「芝浜、文七元結他」、怪談噺「牡丹灯籠、真景累ヶ淵他」、グリム童話から題材を取った「死神」など多くの落語演目を創作した名人で独自の世界を築いた。円朝は7年間この地にいたが屋敷地は300坪ほどであったという。

### <大(たい)宗寺 江戸六地藏>

太宗寺は1596年頃甲州街道の道筋に「太宗」と称する僧の庵として造られた、「太宗庵」を始まりとします。その後内藤家の庇護を受け7396坪の寺領の寄進を受けた巨刹でした。

### 銅造地藏菩薩坐像

銅造で像高は267cm、正徳2年に「江戸六地藏」の三番目として甲州街道沿いに造立されました。

「江戸六地藏」は深川の地蔵坊正元が発願し、江戸市中から多くの寄進



者を得て、江戸時代の前期に江戸の出入口 6ヶ所に造立されたものです。

<p>東海道：品川寺（品川）</p> 	<p>奥州(日光)街道：東禅寺(浅草)</p> 
<p>甲州街道：大宗寺（新宿）</p> 	<p>中山道：真性寺(巣鴨)</p> 
<p>水戸街道：霊巖寺（江東区白河）</p> 	<p>千葉街道：永代寺（江東区富岡） 現存せず</p>

### 内藤新宿のお閻魔さん

大宗寺の閻魔様は江戸三大閻魔にも数えられており、その大きさは都内最大級の 5.5m です。文化 11 年に安置されましたが、火災や震災に合うたびに修復され、体は昭和 8 年に作り直された物で、現在は頭部のみが当時のままです。

新宿区指定有形民俗文化財に指定されており、「内藤新宿のお閻魔さん」と呼ばれ、地元の人々に親しまれています。

また、閻魔堂内の左手方向には、閻魔大王に仕え三途の川を渡る亡者から衣類をはぎ取る奪衣婆（だっえば）の像がある。衣類は衣領樹に掛けられ、その枝の垂れ方によって罪の軽重を計ったとされます。**塩地藏**：頂いて帰り願いが叶ったら倍にして返す。

**切支丹灯籠**：内藤家の墓所から脚の部分が出土、江戸中期のものと思われる。脚部は十字架とマリア像、他の部分は復元。



## <内藤新宿>

寛永2年（1625）大宗寺門前の町屋を内藤新宿と呼ぶようになった。宿と言っても正規の宿場ではなく本陣や問屋場などの宿の設備はなく、休憩所でした。内藤新宿は現在の新宿1丁目～3丁目界限に幕府の許可を得て誕生しました。内藤新宿は江戸四宿の一つであり、木賃宿や平旅籠が軒を並べて賑わっていたが、飯盛旅籠（飯盛女と呼ばれる遊女を置く旅籠）も多く、明和9年の記録では、幕府は内藤新宿に150人の飯盛女を置くことと、旅籠屋52軒の営業の許可を出している。

## <追分>

「追分」とは道が二つに分かれるところで、「新宿追分」は甲州街道と青梅街道が分かれるところです。

追分だんご本舗の店の先、新宿3丁目の交差点に「新宿原標」があります。追分団子は太田道灌に団子を献上したのが始まりで道灌だんごと呼ばれましたが、その後追分に移り追分だんごと呼ばれるようになりました。



## 帰路：

副都心線 新宿3丁目－小竹向原経由 所沢（乗車時間約55分）